

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第6回 加東市環境市民会議
開催日時	令和2年10月6日(火) 午後7時から午後9時30分まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の氏名 竹村厚司 出席委員の氏名 竹村厚司 芦谷恒憲 長谷川豊 三木達明 藤原大輔 井上益子 出井和典 植田竹吉 衣笠比佐志 藤本真佐己 井上綾乃 小薮準也 中嶋研二 余部衛 丸山正人 丸山健次 欠席委員の氏名 片山剛志 森美佳 柳隆之 戸田恵造 笠井郁男 藤井哲夫 藤井悦雄	
説明のため出席した者の職氏名 (株)総合環境計画 藤田茂伸 寺田みなみ	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 市民協働部生活環境課 課長 梶本俊也 副課長 藤原義守 同課資源循環係 係長 丸山耕市 同課環境政策係 主事 竹内大樹	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開会 2 あいさつ 3 議事 ・市民・事業者の重点取組について ・加東市の環境の将来像について 4 閉会 以下議事内容 ・市民・事業者の重点取組について 資料「第6回環境市民会議の議事について」「市民・事業者の環境行動方針(案)」「加東市の環境の将来像」素案」に基づき、分野ごとに事務局から説明のうえ、議事を行った。内容は以下の通り。 委員長 本日の議題は市民、事業者の重点取組についてです。もう一つは加東市の環境の将来像についてです。それでは最初の市民、事業者の重点取組について、事務局から説明をお願いします。	

事務局

それでは早速、ご説明に移らせていただきます。

お手元に「第6回環境市民会議の議事について」という題のA4資料と、「市民・事業者の環境行動方針（案）」という冊子をご用意ください。

今年度、これまでに開催した2回の市民会議では、「市民・事業者の重点取組」について、ワークショップ形式で話し合っていました。本議題については、今回と次回のアと2回の市民会議で完成を目指します。

ワークショップでいただいたご意見をもとに、各分野の重点取組の素案を事務局で作成いたしました。今回の市民会議では、事務局より素案を説明し、委員の皆様には、各主体での取組の実現の可否、案の改善点などについて、ご意見をいただきます。

今回の市民会議終了後、会議でいただいた意見をもとに、素案の加筆、修正を行い、次回、第7回の市民会議で提示させていただきます。次回の提示はほぼ完成案の報告のみと考えておりますので、「市民・事業者の重点取組」の中身について、委員の皆様にご意見をいただき、方向性の変更などができるのは、今回の市民会議が最後となります。

今回は全分野の取組案についてご説明をさせていただき、ご意見を募りますので、長丁場になるかもしれませんが、市民・事業者の取組を決めるうえでの大詰めの部分になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、後ほど取組案についてご説明させていただくときに、実施主体の一つとして「地域」という言葉がよく出てきますが、第2次計画の進行にあたり、各地区に「環境推進員」として新たな役員を設置し、地域の環境学習の推進や環境イベントの開催などを中心となって進めていっていただく方を出していただこうと考えております。

地域が主体となって推進していく取組の際には、市は地区の「環境推進員」と調整のうえ進めていくことを考えております。

それでは、「廃棄物分野」の取組からご説明させていただきます。取組案冊子の1ページ目をご覧ください。

廃棄物分野では「誰もが暮らしやすい循環型のまち」、「ごみを減量、再利用の意識の高い市民が暮らす美しいまち」を目標に、3つの取組案をまとめました。

取組案の1つ目は「ごみについての学習会等の開催促進、参加促進」です。

取組案を読み上げさせていただきます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）廃棄物分野 重点取組1 読み上げ>

この取組案はワークショップでいただいた、ごみ減量リサイクル懇談会の参加者が固定化されていること、外国人や転入者など、加東市への滞在歴が短い方々への対応などを反映させたものになっています。

次に2つ目の取組案「食品ロスの削減」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）廃棄物分野 重点取組2 読み上げ>

フードドライブに関しては現在社会福祉協議会が実施しており、市においては、職員への周知、イベント開催時のブース設置などを行っており、県も「ひょうごフードドライブ」として推進しています。主に福祉目的のものです。環境基本計画では、福祉分野と協働し、食品廃棄物の削減につなげようとするものです。

最後に3つ目の取組案「集団回収の促進によるリサイクル推進」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）廃棄物分野 重点取組3 読み上げ>

この取組案は地域でのリサイクル促進を促すとともに、ワークショップの意見の、集団回収で大人が頑張る姿を子どもたちに見てもらい、環境学習に繋げようというものを反映させました。

廃棄物分野の取組に関しては以上です。

委員長 ありがとうございます。廃棄物分野の取り組みについてです。何か意見や質問や提案はありますか。もし何もないければ、このままで決まります。

委員 食品ロスの削減の所で片仮名がよく出てきます。聞き慣れない言葉です。これは下に説明書きがあるので、それを読めば分かりますが、日本語で書けるものは、できるだけ書いた方がいいでしょう。

委員長 はい。今の意見はいかがですか。

委員 どうしても片仮名のイメージがすぐに湧きませんでした。イラストや写真などを入れることによって、理解を進めてはいかがだろうと思います。片仮名用語は専門家しか分かりません。市民の立場になると、目で見て分かるのであれば、写真もしくはイラストでイメージをつくるのはいかがですか。

委員長 いかがですか。

委員 片仮名とは別のところですよ。実施主体のところに市民と事業者ほかとなっていますが、市の関係機関が入っていたほうが良いと感じました。例えばフードドライブは、社会福祉協議会が積極的に実施されていると思います。そのように既にされている団体があるのであれば、ここに記載すると、そこに協力すれば市民も事業者も一緒に取り組めることが分かりやすくなるのではないのでしょうか。

委員長 市もしくは公共的な団体をここにできるだけ入れていくということですか。

委員 そうです。

委員長 それはいいと思います。その前に、先ほどの用語の点です。

委員 若い人にはそれほど抵抗がないかもしれませんが、高齢者は抵抗があると思います。でも仕方ありません。これは今までになかった言葉です。フードドライブやドギーバッグ、これは私も初めて聞く言葉です。

委員長 私は知りませんが、これに対応する日本語はありますか。

委員 新しいものなので、なかなか無いと思います。ドギーバッグはこのようなものということをしかりと見せてあげればどうでしょう。

委員長 案を市民の皆さまに見せるときに、写真等も付けるということですか。

委員 現物の写真やイラストで見せると、ある程度はイメージできると思います。

委員長 日本語併記と写真を付けると良いでしょう。そのようなところは大体、説明を加えるということでもいいでしょう。

委員 フードドライブも結局は、集団回収と同じだと思います。子ども会でも廃品回収をしています、こちらが回収に行くとたくさん出してもらえますが、持ってきてくださいとなると極端に減ってしまうようなことがよくあります。フードドライブも、持って行ってくださいでは、集まりづらいと思います。例えば社会福祉協議会だけではなく、事業所に持って来てもらって、事業所から送ってもらうなどの努力もしていかなければなりません。市役所のような所でも、そのように受け入れる所や持ち込みやすい所を広げていかなければ、根付かないと思いました。

委員長 集団回収の場を増やすということですか。

委員 そうです。集団回収にしてもフードドライブにしてもです。社会福祉協議会に

	<p>持って来てくださいますといっても、どこに持っていけばいいのかということが一番の印象になると思います。推進だけではなくて、持ち込み場所をたくさん広げていかなければ、なかなか根付かないと思います。</p>
委員長	回収の受け皿を増やすことですか。
委員	はい。
委員長	いかがですか。今のことにしても、他のことでも構いません。
委員	軌道に乗ってしまえば、そのようなこともないと思います。今までになかったことをするので、最初のうちはなかなか浸透しないでしょう。
委員	<p>集団回収に関しては、今でも小学校や中学校では、地区によって集め方が色々あります。地区の特定の場所に出す地区もあります。私の所は全戸を回って、門前に出してもらってから回収します。高齢者が増えているので、取りに来てもらえると出せますが、どこかに持って行くのは少し抵抗があるという意見を聞いたことがあります。回収方法はそこまで具体的に書いてありませんので気になります。</p>
委員	<p>広めようとすることは分かりますが、漠然とし過ぎています。また、回収地点が最寄りの場所にあれば、有効に利用する人は多いと思います。</p>
委員長	受け皿を増やしたほうがいいということについて、市としてはいかがですか。
事務局	<p>先ほどフードドライブについて、いくつか意見をいただきました。フードドライブに関しては、実施する母体はあくまで社会福祉協議会等で、食べものをそこに持って行く手助けや集める手助けをしようという取り組みになっています。</p> <p>受け皿を増やす話についてです。県では、スーパーで食品回収窓口を設け、集まった食品を、福祉団体に渡すという、受け皿を増やす取組を実施しています。こちらの計画においても、事業所や地区で受け皿になっていただけたらと思いますので、加筆させていただこうと思います。</p>
委員	食品ロスの削減について、市民、事業者のところにフードドライブの実施拠点を増やすというような、何かを加筆してもらえるとということではなかったですか。
事務局	<p>食品ロスの削減について書いていることは、フードドライブという取組が実施されている中で、フードドライブの実施主体は変わらずに、それを助け、推進していくという重点取組の主体が、市民・事業者であるということです。書き方はもう少し分かりやすくまとめます。</p>
委員	分かりました。
委員長	他にありますか。
委員	<p>フードドライブについて、一般市民はどこまで関心を持っているかが疑問です。フードドライブ自体の周知や、人助けになるということの周知について、真剣に考えるべきではないでしょうか。</p>
委員	<p>フードドライブについての説明は、本当に言葉の注釈だけにしたほうがいい気はします。</p> <p>もう一つ、聞きたかったことがあります。取組3の内容・手法のところ。語尾が、しましうとなっているのはここだけです。これは言い回しが緩いですが、何か意図がありますか。同じにしましうてもいいという気がします。</p>
事務局	これに意図はありません。
委員	ということは、します、がいいです。
委員長	それは統一するということですね。先ほどのフードドライブの件についてです。要するに、フードドライブ自体の普及活動を行うことをここに一つ入れておくということではいかがですか。
委員	フードドライブについてです。フードドライブ以前に、食品ロスについて問題意識を持っている市民の方がどれだけいるのかということです。
委員長	そうですね。
委員	そこから啓発しなければならないのではと思います。

委員長 分かりました。食品ロス、フードドライブ等についての啓蒙活動ですね。

委員 先ほど食品ロスについて話していましたが、食品ロスがどれくらいあるのかは分かりますか。例えば、どれくらいあって、問題になっているかということ。具体的な数字を入れればイメージがしやすいと思います。データがあればですが。

委員長 加東市内でのデータはありますか。

事務局 加東市内における食品ロスのデータはありません。国から発表している数字です。国内で621万トンという数字を使って、1人当たりで130グラムを毎日捨てている。そのような表現で啓発を行っています。加東市オリジナルのデータはありません。

委員長 国全体のものでもよろしいです。国全体でこれだけのデータが出ているということで、加東市でも頑張らましようという感じで良いと思います。そういった知識を広めることです。次の分野にいきたいと思います。地球環境分野についてお願いします。

事務局

次に「地球環境分野」についてご説明いたします。地球環境分野のページをご覧ください。

地球環境分野では「市民、事業者、行政での役割分担が進んだまち」、「地球環境について身近に感じられる工夫をするまち」、「環境意識の高い市民の暮らすまち」の実現を目標に、3つの取組案をまとめました。

1つ目の取組案「気候変動に対する適応の推進」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）地球環境分野 重点取組1 読み上げ>

この取組案はワークショップでいただいた、気候変動によって起こってしまう被害への対応が重要であるという意見を反映させたものになります。計画に記載する際には、国、県、市が出している、家庭や事業所でできる気候変動の被害対策をまとめて記載し、対策に関しての学習ができるページにしたいと考えています。

次に2つ目の取組案「家庭からのCO₂排出削減」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）地球環境分野 重点取組2 読み上げ>

現在、市では家庭用エコハウス設備の補助を行っており、「うちエコ診断」の受診を補助の必須要件としています。エコハウス補助、うちエコ診断による家庭からのCO₂削減量の平均値が2トンと効果が高いこと、受診者の評価が高いことから、地域、事業者の取組として集団受診を推進し、家庭からのCO₂削減を推進するものです。

最後に3つ目の取組案「かとうスマートムーブの推進」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）地球環境分野 重点取組3 読み上げ>

この取組は、ワークショップでいただいた、車の乗り合いによるCO₂排出削減というものを含めて、市民、事業者ができる自動車からのCO₂排出削減を環境省が推進する「スマートムーブ」になぞらえてまとめたものです。

地球環境分野の取組に関しては以上です。

委員長	ありがとうございました。地球環境分野の取り組みについて、皆さんに議論をお願いします。何か意見、質問や提案はありますか。
委員	片仮名についてですが、スマートムーブの説明がありません。もう少し分かりやすくできませんか。
委員長	これは環境省がスマートムーブと言っています。
委員	最低限、説明を入れておかなければなりません。
委員	かとうスマートムーブのところですよ。自動車や公用車の買い替えの際は、ハイブリッド車、電気自動車と書いてあります。市役所が購入する車は、できれば電気自動車ないしはプラグインハイブリッドの台数を積極的に増やしてほしいと思います。災害時の避難所への電力供給に使用してほしいと思います。
委員	うちエコ診断という言葉を知りませんでした。鍵かっこを付けた方が読みやすいと思います。重点取組3、かとうスマートムーブだけ鍵かっこを付けていますが、スマートムーブだけかっこを付けていますが、意味はありますか。
事務局	うちエコ診断については、確かに鍵かっこを付けた方が読みやすいと思います。かとうスマートムーブについてですが、今は環境省によるスマートムーブという取組が推進されています。その加東市版ということで、かとうスマートムーブという新しい用語として鍵かっこをつけています。
委員長	自動車や公用車の買い替えのときは、特に公用車は電気自動車にするということが良いでしょうか。 あと私も疑問があります。例えば自家用車の買い替えのときに、ハイブリッド車にしましょうと書いてあります。これはハイブリッド車というよりは、燃費の良い自動車を選ぶべきではないでしょうか。ハイブリッド車といっても、3000cc も4000cc もあれば燃費が悪いのでCO ₂ がたくさん出ます。
事務局	はい。
委員長	CO ₂ の排出量が少ない車というのは、恐らく燃費の良い車ということだと思います。皆さんはいかがですか。
委員	エコカーはそのような意味ではないでしょうか。
委員長	ハイブリッド車の全てが、エコカーなのかというとハイブリッド車でないほうがエコカーの場合もあると思います。
委員	同じ排気量であれば、ハイブリッド車のほうが燃費は良いのではないですか。
委員長	同じ排気量のときはですね。ハイブリッド車だから良いと思って、大きな排気量の車を買えばそれはエコではありません。単にエコカーへの買い替えということだと思います。
委員	語句の指摘をさせていただきます。かとうスマートムーブについてですが、少し馴染まない言葉だと思います。「寄り合い」は、正式な文書で出す場合は、会合や集会がいいでしょう。また、「触れ合い」は全て平仮名にするのがいいと思います。
委員長	ありがとうございます。他はいかがですか。
委員	かとうスマートムーブの一番下にある、市内の公共交通機関の拡充を検討しますというのは、どのようなイメージをされていますか。
事務局	これは担当課と調整して書かなければならないと思っています。乗り合いタクシーやバス等の新たな公共交通機関を常に考えています。そのための計画もありますので、そことの整合をとって載せようと思っています。市としては、新たな交通機関できた際には積極的にご利用いただいて、CO ₂ の削減もしていただければという意味で書こうと思います。
委員	そうすると概略ができてから載せるほうが皆は理解しやすいと思います。そのままだと漠然として、市に対する期待が大きくなります。
委員長	他に意見はありますか。
委員	重点取組2と3でCO ₂ の削減をすると書いてあります。イメージとしてどれぐら

	いの削減の予定ですか。
事務局	特に目標値のイメージはもっていません。
委員	このようなものを書くときは、どれぐらいを目指すという目標を決めたほうが分かりやすいと思います。そうすると、それに向けて頑張ろうということになるでしょう。単に減らすだけではイメージが湧きにくいです。例えば国の目標等、さまざまなものがあります。目標数値として決めるのではありません。どれぐらいの程度というものをしっかりと示したほうが、分かりやすいと思います。
委員	重点取組1についてです。気候変動に対するところです。内容・手法、事業者の3つ目です。災害発生時において市民への対策用物品の提供や、サービスの提供など得意分野での支援を検討しますとあります。ここ最近になって、加東市はあらゆる事業者と災害協定を結ばれていると思います。その中で伺ったのが、協定とありますがそこで発生した費用等が支払われる場合もあります。無償で提供、支援となっていますが、協定ではそのような金銭が動くようなことがあるとなると、どちらのほうを取ればいいのか悩むと思います。その辺りはどうですか。
事務局	協定という表現を使うかについて考えましたが、最近は色々な、例えばコロナ禍において協定を結ばず、マスクを寄付していただくなどの支援をいただいている企業があります。一括りに協定を結ぶ、ということではなく、支援をするという書き方で、どちらも含めてとれる様な表現にしています。
委員	それでしたら、無償、有償について誤解が生じないよう文言の整理をお願いします。
委員	重点取組3の内容・手法のところで、(燃費も良くなりお財布にも優しいです)というところは、心のつぶやきだと思います。削除したほうがいいと思います。
委員	非常に分かりやすくていいと思いますが。
委員	ちょっとこの冊子には馴染まないのではと感じます。
委員長	その辺をもう一度、検討していただきます。
委員	先ほどCO ₂ 削減を目指しますについて、目標があったほうがいいという話がありました。前回の基本計画を見たところ、ここに10年後にはCO ₂ 排出25%削減となっています。恐らくこれはそのときの国の目標に合わせて書いたものでしょう。
委員	国の目標があるので、それをここに書けばいいと思います。加東市独自のものでも、イメージしやすい形で書けばいいのではないのでしょうか。
委員長	どうもありがとうございました。多くの議論をいただいてありがたいですが、時間もありますので、またあれば後でということにします。それでは3つ目の自然環境分野について説明をお願いします。
事務局	次に「自然環境分野」についてご説明いたします。自然環境分野のページをご覧ください。
	自然環境分野では「山の管理への関心が高いまち」、「身近な自然環境を守り維持しながら、将来にわたって安心して暮らせるまち」の実現を目標に、3つの取組案をまとめました。
	1つ目の取組案「里山、山林とのふれあい、保全の推進」について読み上げます。
	<資料 市民・事業者の環境行動方針(案) 自然環境分野 重点取組1 読み上げ>
	この取組案は、ワークショップでいただいた、木育や環境イベントを通して山林への関心を持ってもらうという意見を反映させたものです。すでに実施されているイベントを参考に、地域の活動に波及させるイメージをもっています。

次に2つ目の取組案「水辺環境とのふれあい、保全の推進」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）自然環境分野 重点取組2 読み上げ>

これは先ほどの里山、山林の取組案の水辺バージョンになります。

最後に3つ目の取組案「みんなで歩こう環境さんぽ」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）自然環境分野 重点取組3 読み上げ>

この取組案はワークショップでいただいた、山や川での環境イベントは安全性の確保が難しいこと、地域をみんなで散歩して田んぼや溝に住む生物などを観察するのはとても良い環境学習になること、地域特有の環境とのかかわりあいを再発見し、後世に伝承していくことが重要であることなどの意見をまとめたものになっています。

自然環境分野の取組に関しては以上です。

委員長 ありがとうございます。自然環境分野に関して意見等をお願いします。

委員 自然環境分野（1）の「山」は「里山」の方がいいと思います。

重点取組3の目的の最初の1行目の「加東市の環境」の鍵かっこには何か特別な意味がありますか。

それから、目的のところで上から4行目です。在来生物の種類や地域特有の自然とのつながりを教わる中で、と書いてあります。教わるという表現は、自主的な活動と考える場合、学ぶ、のほうがいいと思います。

事務局 今の時点は案なので、語句についても、変更した方が良ければ、委員の皆さんで議論いただければと思います。

委員 重点取組1と2について、内容・手法のところで、市民の取組で、ごみ拾いや生物観察と書いてあります。これはごみがあることが前提の書き方です。少し引っ掛かりました。

委員 確かにごみはありますが

委員 確かに違和感があります。ごみ拾いという言葉や、例えば環境を保護してとか、何か違う文言に置き換えてはどうでしょうか。

委員 水辺の環境のところの地域の手法のところや、やしろの森公園などで行われている掻い掘りなどのイベントを参考にとあります。ここだけ固有名詞を挙げるのはどうでしょうか。

委員 たぶん地域では、昔から掻い掘りをそれぞれで行われていると思いますが、やしろの森公園には、掻い掘りをイベントとして実施するノウハウがあるということだと思います。

委員長 どうでしょうか。イベントとして行っていることが、他の地域の参考になるということであれば、せっかく加東市内にある施設ですし、例としてあっても構わないという考えもあると思います。いかがでしょうか。

委員 私もやしろの森公園と書いてあっても、それはいいと思います。

それともう一点です。自然観察等の講師の紹介だけではなくて、講師費用も市で補助いただければと思います。

委員長 それは検討してもらえるといいと思います。

委員 先ほどからでている掻い掘りの件です。消防団としては、できるだけ一斉に掻い掘りをするのはやめていただきたいです。どうにかならないかと市と協議しているところなんです。消火活動時に池の水を使うことがあるからです。活動を波及させていただくことはありがたいですが、地区地区で順番に行っていただくような考

慮をしていただけるとありがたいです。

委員長 それは非常に重要な点です。

委員 ため池のことだけを考えると、掻い掘りをして泥を流してするほうがいいわけですね。

委員 重点取組2を読んでいて、やたらと掻い掘りがでてくるように思いました。掻い掘りだけに的を絞っているような受け止め方をされないかという気もします。水辺の環境保全には、多くのことがあると思います。一つの具体例として掻い掘りを挙げるのであればいいですが、掻い掘りが4回ほど登場しているので、読んでいて非常に頭に残ってしまいます。また語句の修正を検討していただきたいです。

委員長 検討よろしくをお願いします。それでは、次の分野にいきたいと思います。4つ目は生活環境分野です。お願いします。

事務局

次に「生活環境分野」についてご説明いたします。生活環境分野のページをご覧ください。

生活環境分野では「美しい景観が維持され、誰もが安心して暮らせるまち」、「ポイ捨て、不法投棄のないまち」の実現を目標に、3つの取組案をまとめました。

まず、1つ目の取組案「ごみ拾い、ポイ捨て防止による美しい生活環境の維持」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）生活環境分野 重点取組1 読み上げ>

この取組案は、ワークショップでいただいた、幹線道路沿い等のポイ捨てや、空地や耕作放棄地等への不法投棄の問題に対処するものです。

次に2つ目の取組案「グリーンカーテンの普及促進」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）生活環境分野 重点取組2 読み上げ>

この取組案は、1次計画の重点取組の1つであり、身近な環境美化の取組として現在も続いているグリーンカーテンの普及について、継続して記載し、更なる普及を目指すものです。

最後に3つ目の取組案「まちなか緑化大作戦」について読み上げます。

<資料 市民・事業者の環境行動方針（案）生活環境分野 重点取組3 読み上げ>

この取組案は、先ほどのグリーンカーテンの取組に加えて、市の「花いっぱい運動」、市や県のアドプト事業、県の「花のあるまちづくり事業」や「県民まちなみ緑化事業」など、数ある緑化事業を活用し、地域、事業者、市総出で緑あふれる美しい生活環境を形成しようというものです。

生活環境分野の取組に関しては以上です。

委員長 ありがとうございます。生活環境分野について意見ををお願いします。

委員 グリーンカーテンの更なる普及とあります。現状はどれで、どれだけ目指すとい

	うのはあるのですか。
事務局	数値目標までは、まだ立てていません。イメージでも、検討するようにします。
委員	どれぐらい取り組まれたかについては、少し書いてもいいのではないのでしょうか。
委員長	実績ですね。
委員	エコ隊です。取り組んだということは、何件をしているという実際の数は把握し切れていませんが、フォトコンテストで何枚出してくれたのか、何軒の家が出してくれたのかについては、1次計画の評価として毎年、出しています。そのような形であれば、普及の度合いになるかどうかは分かりませんが、見えるものにはなっています。あとは苗をいくつ配布したのかは分かります。ただ、実際に加東市内に何件実施しているかところがあるかは分かりません。
委員	重点取組3について、細かい点になります。「環境学習」と「環境教育」の2種類の表記があるので統一した方がいいと思います。
委員	重点取組2と3はどちらも緑化なので、1つにした方がいいと思います。それとグリーンカーテンの中の内容・手法のところについてです。水やりや作物の収穫などとありますが、作物がならない植物もありますので、表記は水やりだけでいい気がします。
委員長	よろしいですか。それでは時間も押しているので、最後の5番目の分野です。お願いします。
事務局	最後に「協働の推進・環境学習分野」についてご説明いたします。協働の推進・環境学習分野のページをご覧ください。 協働の推進・環境学習分野では「楽しみながら環境について学べるイベントのあるまち」、「環境を学ぶ機会を持てるまち」の実現を目標に、2つの取組案をまとめました。 1つ目の取組案「不要品譲渡会の開催」について読み上げます。 <資料 市民・事業者の環境行動方針（案）協働の推進・環境学習分野 重点取組1 読み上げ> この取組案は、ワークショップでいただいた、不要品交換会による市民の交流、まだ使えるもののリユースによる廃棄物削減という意見を具体化したものです。市の秋フェスなどのイベントで実施することから始め、取組を地域に波及させることを考えております。 次に2つ目の取組案「みんなで取り組む環境学習」について読み上げます。 <資料 市民・事業者の環境行動方針（案）協働の推進・環境学習分野 重点取組2 読み上げ> この取組案は、ワークショップでいただいた、市民・事業者・市のパートナーシップによる環境学習の推進、パートナーシップ協定の活用という意見について反映させたものです。 3主体がそれぞれの得意分野を活かしながら協働し、環境施策を推進するという環境基本計画の理念を、環境学習に活用するものになります。 「協働の推進・環境学習分野」の取組案については以上です。
委員長	ありがとうございます。協働の推進・環境学習の分野について、意見を願ひし

	ます。
委員	不用品譲渡会と書いてありますが、フリーマーケットのほうが、みんなに馴染みがあると思います。
委員	重点取組 1 の不用品譲渡会の件です。趣旨としては不用品を無償で交換するということですか。
事務局	そのとおりです。
委員	私は金属類のリサイクルの仕事をしていますが、さまざまな物品を海外に転売されるバイヤーが大勢います。市で行われている金属類の集団回収、あの場でもバイヤーが来られます。市としては、市内の方で限定するのか、もしくは業者を省くのか、そのようなところの話を詰めていっていただきたいと思います。
委員長	今の件について、市はいかがですか。
事務局	貴重な意見をいただいたと思っています。
委員長	例えば、そのような業者が来られたときに、これはそのような人ということはすぐに分かりますか。
委員	正直、今の時代は無理でしょう。私はこの企画はとてもいいと思います。ただ、その隙間を狙って入って来られる企業、業者が必ずできます。
委員	先ほどの不用品譲渡会の在り方、方向に関しては、今、言われたように議論を尽くす必要があると思います。我々が善意で接していても、そうではない方もいます。また先ほど、フリーマーケットと違いについて言われていました。フリーマーケットはそこに金銭が関わってくる部分が多いと思います。無償であれば、フリーマーケットという言葉は誤解を与えるので譲渡会の方がいいでしょう。
委員長	ありがとうございます。いかがでしょうか。他にありますか。譲渡会の在り方を検討するということになると、根本的に話が変わってくる可能性がありますか。
事務局	計画段階で、これが実施要領になる必要はないと考えています。来年から始まる計画ですが、例えば来年度で詳しく実施方法を検討して、再来年度から行っていくという形でもいいと思います。
委員長	検討期間を少し長く考えるということですね。分かりました。他にありますか。
委員	協働の推進・環境学習について、一言でいうと仕上がっていない感じがします。また不用品譲渡会というところで、交換会という言葉が使われていました。譲渡だと一般人のふりをして持って帰って売る人もいるかもしれませんが、交換会となると、何かを持ってきて替えるというイメージです。業者であれば、持ってきて交換することは少ないと思います。なので、交換会のほうがいいという気がします。文言だけでも交換会にしたほうがいい気がします。
委員	ワークショップでの検討段階では廃棄物分野で話し合っていた不用品譲渡会が、協働の推進・環境学習分野に入っているのは違和感があります。
委員	この焦点が絞られた2つの取組だけで1分野とするのは無理がある気がします。
委員長	今、言われたことについてです。例えば不用品譲渡会のごみの方に入れて、環境学習は自然環境の方に入れるなど、これも事務局で検討していただくと思います。
委員	協働の推進ということで、加東市の環境パートナーシップの取り組みは、とても独自性があると思います。それを重点取組で挙げてしまったほうがしっくりくるような気がします。
委員長	今の件に関しても、事務局でもう一度検討していただくということでよろしくお願いします。
	これで5番目の分野まで終わりました。前の分野のところ、これまでの全体に関して何かまだ意見はありますか。
委員	市民、事業者の重点取組についてだと説明があり、話をしてきましたが、表紙を見ると、重点取組とは書いていません。行動方針です。上の方に重点取組と記載

	し、下に行動方針と記載した方が分かりやすいと思います。
委員	不用品譲渡会は食品ロスの削減のところと同じことです。食べ物かそうでないかの違いで、同じことではありませんか。これは一緒にできませんか。
委員	やはり協働の推進・環境学習分野は消除して、取組はその他の分野に振り分けた方がいいと思います。
委員長	その辺はもう一度、事務局で検討していただいてはどうかと思います。他はいかがでしょうか。もしもないようであれば、時間もだいぶ遅くなっています。最後に加東市の環境の将来像素案とあります。これについて事務局から説明をお願いします。
事務局	
	お手元に「加東市の環境の将来像」素案という題のA4資料をご用意ください。
	「加東市の環境の将来像」は計画書冒頭に記載する、計画全体を通しての将来像です。こちらに関しても、取組案と同様に、素案を基に委員様に議論いただき、いただいた意見、提案を基に事務局で加筆修正を行います。今回事務局で2案をご用意させていただいています。
	案①は「環境びとが互いに高め合い、山田錦・もち麦が育つ大地を未来へつなぐまち加東」というものです。こちらは骨子案作成段階から事務局が仮で掲載していた案になります。
	案②は「身近な自然や豊かな農地を後世に受け継ぎ、未来の地球環境を想って協力し合う環境びとが暮らすまち加東」というものです。こちらは市民会議を通しての雰囲気や、パリ協定、SDGsで示される、世界一丸となって気候変動等の諸問題の対応に当たらなければならないという視点をもって作成した案になります。この2案を叩き台として審議をお願いいたします。
	このキーワードは入れた方が良いでしょう。など何でも構いませんのでご意見、ご提案をお願いします。
委員長	ありがとうございます。将来像に関してですが、案1、案2と二つがあります。何か意見はありますか。
委員	ある程度、字数制限はありますか。
事務局	あまり長くなると見た目的にどうか、あまりすっと入ってきません。
委員	はい。効果的なことを狙うとそうです。案2について、非常にいいと思います。が、このままだと長過ぎると感じました。
委員	議題が唐突だという気がしました。早く決めたいということですか。これについてもワークショップ形式で練れば良いと思いますが、それをする時間がかるということだと思います。もしもそれほど急がないのであれば、市民会議の中で改めて少し時間を取ることはできませんか。
委員長	もう少し時間をかけて議論をしたいということですね。
委員	私もまとまってはいませんが、案1についてです。これは農家の人は頑張ってやろうかという感じはあります。農家以外の方は、これは将来像として自分のものにはならないと思います。そのような感じがしています。案2のほうは、そのような意味ではいいと思いましたが、少し長く感じます。どのようなものにすれば、より覚えやすいようなものになって、皆がそれに向かって取り組めるかと思いました。環境びとという言葉をよく使われますか。初めて聞きました。これは国が使っていますか。
事務局	国は使っていないと思います。一次計画のときに作成された言葉ではないでしょうか。生活環境課の計画などでは、よくこの環境びとという言葉を使っています。
委員	将来像の案をキーワードに出してくださいという提案ですが、この計画の内容に

	リンクするような形でないといけないと思います。そうすると、今まで審議してきた重点取組にキーワードがあると考えたほうがいいと思います。
委員	案１の山田錦についてです。私は農家なのですが、いつまでも山田錦にこだわるのも無理があると思います。また時間があればもっと議論したいと思います。
委員長	議論する時間はありますか。
事務局	新たに何回も議論を重ねることは難しいかもしれません。次回の環境市民会議は、１０月下旬頃に予定していますが、その中でもう一度話し合っていたくのはいかがですか。
委員	案を持ち寄ればいいです。
事務局	次回にこのようなキーワードや案を持ち寄っていただくような形がいいのではないのでしょうか。その場で一から考えるとなると、最後にまとまらずに終わってしまうこともあると思います。
	次回会議の日程調整時に、案を書く欄を設けたいと思います。
委員長	それでは、今回の議事はこれで終了します。

以　上

